

パキスタンの女性たち：変化は目の前に

シャバーナ・マーフーズ（パキスタン）

昨年、パキスタン南部の州で女性の権利活動家が夫により殺害されるという事件が起きました。その夫は妻の活動や国際女性デーの集会（アウラット・マーチ）への参加に反対だったのです。アウラットとは、パキスタンの国語であるウルドゥー語で「女性」を意味します。

今年に入り、アウラット・マーチの主催者たちは、女性の外見への中傷、家父長制、あらゆる女性に対する虐待に反対する、など大胆なメッセージ多数を記したプラカードを女性に掲げることを許したとして、殺害予告を受けます。参加した女性たちも、恥知らずな態度と嘲笑されるなど、特にネット上で激しい反発を受けたのです。結果として導き出された全ての結論、判断から言えることは、パキスタンでは家父長制と女性の権利との闘いには、さらに長い道のりが待ち構えているということです。

国内で約 50%の女性が教育を受けられるようになり、意識や一定程度まで識字率も高まったことで、女性の間で活動は活発化しています。強く願っていた方向に進んではいません。ただ現在でも女性の婚姻可能年齢の 18 歳への引き上げを議員たちが討議をしている段階です。また国内のあらゆる地方で、女性への教育は不必要、または道徳違反とさえ考えられています。「名誉の殺人」は今日に至るまで、多くの部族民のみならず都市部住民の間にもはびこっています。他から家族の名誉を傷つけられた場合、たとえ女性はその不名誉な行為には何の関わりもない場合でも名誉回復のためには、女性を殺害、レイプ、または裸で引きずり回しても良いとする社会なのです。女性への家庭内虐待の報告は毎日とは言えなくとも、毎週止むことはありません。虐待では、夫が妻の髪の毛を剃ってしまう、肉体的な苦痛を与える、耳や鼻など身体の一部を切り取ってしまう、火をつけて殺害するなど、悲惨な形をとっています。

働く女性にはハラスメントが深刻な問題です。公共交通機関、公共の場所あるいは職場で、卑猥な言葉やわいせつな態度に晒されることになるのです。現在では職場でのハラスメントは犯罪とみなされ、通報やその後の対策も講じやすくする努力も払われていますが、人々の心に根差す家父長制の意識がさまざまな問題解決への大きな障害として立ちまわっています。

パキスタン社会では、現在でも数世紀前からの古い伝統や慣習に従っています。女性の識字率向上は最近の現象ですが、やはり概して、女性は男性の庇護の下、家で家事や子育てを担当する受け身の存在だと考えられてきました。多くの家庭では家長である男性に率いられており、家族に関わる事柄、結婚、教育、職業さえもその決定には男性の承認を得

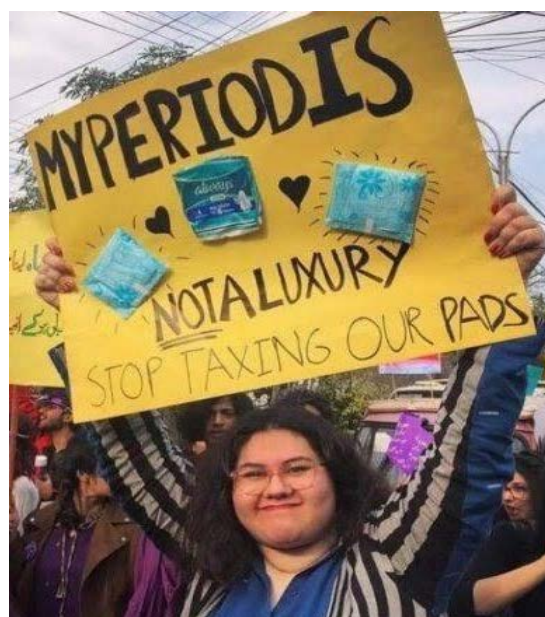
る必要があります。家族の中で男性は自分の持ち物を管理する必要はありません。なぜならそれらは女性の仕事だと考えられているからです。今日でも夜遅くまで外出している女性、公共の場で喫煙する女性（イスラム法により、公共の場での飲酒は全ての市民に禁止されています）、楽しそうに男性に随伴する女性または目立つ服装の女性などは「ふしだら」だと見なされてしまいます。そのため、多くの男性にとって、働く女性で、上記の条件の多く、または全てに当てはまるような場合は、「だらしない」人間と考えられ、男性は何のためらいや罪悪感を持つこともなく、彼女たちを冷遇できるのです。

伝統であれ、宗教であれ、ある種の手法は今でも女性を抑圧するために使われています。ただ世界中の同じような境遇の女性たちと歩調を合わせ、パキスタンでも女性たち自身の打たれ強さこそが変革への光となっています。パキスタン憲法では、男女同権が謳われていますし、イスラム社会で初の女性首相が生まれたのもパキスタンです。現在では、ほぼ全ての専門分野や職場で、まだまだ少数ではありますが、女性の進出を見ることが出来ます。国内では専門学校や大学、職場への通勤、通学のために女性が自ら車やバイクを運転することも増えました。女性に対する暴力はいまだ止むことはありませんが、女性がそれに対し立ち向かっているという変化も見られます。声を上げたり、力の行使のすべを学んだりすることで、屈服することを拒んでいます。アウラット・マーチでの大胆なメッセージ、難しいけれども自らを守ろうとする女性たちの姿こそが、明確に示しています。変化はもう目の前なのです。

パキスタン 2019 「アウラット・マーチ」
で掲げられたプラカード



私の身体は戦いの場ではない。



生理は贅沢ではない。
パッドへの課税は止めるべき。